

## 予 算 要 求 資 料

令和8年度当初予算

支出科目 款：総務費 項：企画開発費 目：地域振興対策費

## 事業名【新】ぎふの自然保育等体験支援補助金

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

総合企画部 地域振興課 移住定住係 電話番号：058-272-1111(内2541)

E-mail : c11143@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 9,000千円 (前年度予算額： 0千円)

区分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使 用 料 手数料	財 産 収 入	寄 附 金	そ の 他	県 債	一 般 財 源
前年度	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要求額	9,000	0	0	0	0	0	0	0	9,000
決定額									

## 2 要求内容

## (1) 要求の趣旨(現状と課題)

少子高齢化が進むなか、地域の担い手不足が深刻な課題となっている。「定住人口」のほか、地域と継続的なつながりを持つ「関係人口」が、新しい地域の担い手として期待されており、「関係人口」の創出・拡大が求められている。

## (2) 事業内容

都市部に住む親子が、県内の保育園等に子どもを一定期間通わせながら、ぎふの暮らしを体験する費用の一部を支援し、家族ぐるみの関係人口創出・拡大につなげる。

【対象者】県内の保育園等に子どもを通わせながら、ぎふの暮らしを体験する県外世帯  
(1週間以上)

【補助率】1／2

【上限額】100千円／世帯、10千円／泊まで

【対象経費】体験世帯が負担する宿泊費

### (3) 県負担・補助率の考え方

県内市町村が取り組む関係人口創出・拡大事業（自然保育等体験事業）の利用者増に加え、他市町村に取組みを普及する目的もあり、県が積極的に支援する必要がある。

### (4) 類似事業の有無

無

## 3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
補助金	8,900	125世帯を想定 60千×90+100千×35
消耗品	60	事務用品代
役務費	40	郵便代
合計	9,000	

### 決定額の考え方

## 4 参考事項

### (1) 各種計画での位置づけ

「清流の国ぎふ」創生総合戦略(2023-2027)において、「2 「健やかで安らかな地域づくり」の「(3) 誰もが活躍できる社会」「②新次元の地方分散に向けた環境整備」に係る具体的な施策として本事業を位置づけ。

### (2) 後年度の財政負担

目標数値の達成に向け、3か年度予算要求を行う予定

### (3) 事業主体及びその妥当性

市町村を関係人口施策の主軸としつつ、県は広域行政を担う「県ならでは」の施策に特化し、市町村の施策支援を実施

## 県単独補助金事業評価調書

<input checked="" type="checkbox"/> 新規要求事業
<input type="checkbox"/> 継続要求事業

### (事業内容)

補助事業名	ぎふの自然保育等体験支援事業
補助事業者（団体）	
補助事業の概要	<p>(目的) 関係人口の創出・拡大</p> <p>(内容) 都市部に住む親子が、県内の保育園等に子どもを一定期間通わせながら、ぎふの暮らしを体験する費用の一部を支援。</p>
補助率・補助単価等	<p>定率</p> <p>(内容) 体験世帯が負担する宿泊費の1/2 (上限10万円、1万円／泊まで)</p> <p>(理由) ぎふの自然保育等体験する世帯の費用の一部を支援</p>
補助効果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・岐阜県の関係人口創出・拡大（自然保育等体験世帯数）</li> <li>・他市町村への関係人口施策普及</li> <li>・地域経済の活性化促進</li> </ul>
終期の設定	<p>終期：令和10年度</p> <p>(理由) 県内市町村が取り組む関係人口創出・拡大事業（自然保育等体験事業）の利用者増及び他市町村に取組みを普及する事業目的を3か年度での達成を目指す。</p>

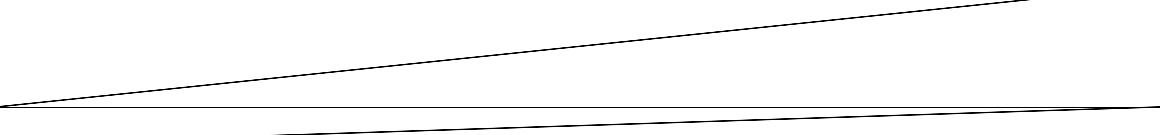
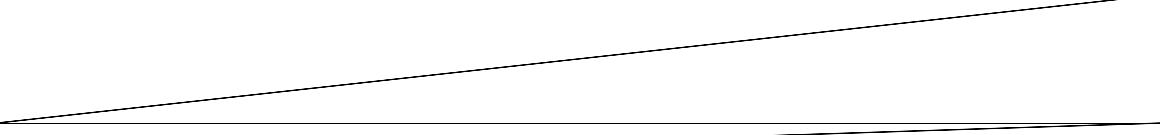
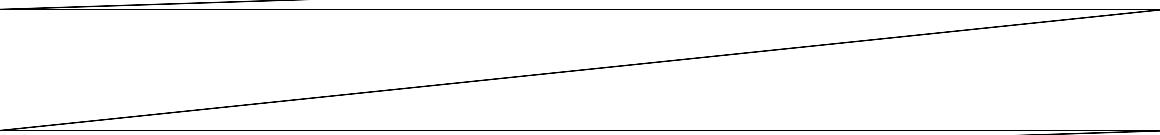
### (事業目標)

- ・終期までに何をどのような状態にしたいのか  
関係人口創出・拡大事業（自然保育等体験事業）の利用者増及び他市町村への普及

### (目標の達成度を示す指標と実績)

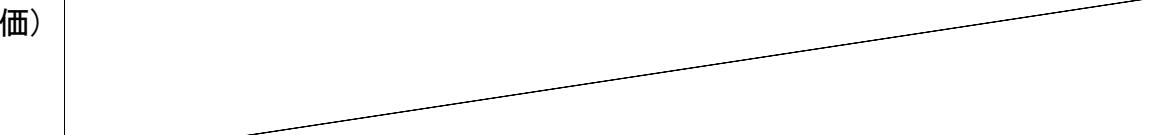
指標名	事業開始前 (R7)	R7年度 実績	R8年度 目標	R9年度 目標	終期目標 (R10)	達成率
体験世帯数	83 (見込)		125	150	180	
取組市町村数	3		4	4	5	

## (これまでの取組内容と成果)

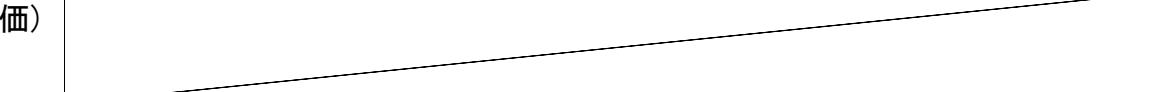
令和4年度	
令和5年度	
令和6年度	

## (事業の評価)

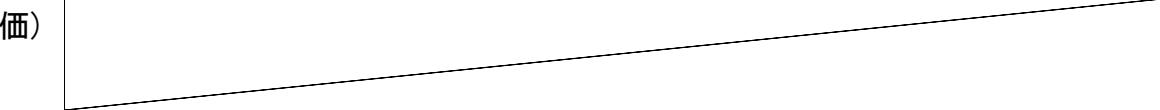
- ・事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断)  
3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない

(評価)	
------	--

- ・事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか)  
3：期待以上の成果あり（単年度目標100%達成かつ他に特筆できる要素あり）  
2：期待どおりの成果あり（単年度目標100%達成）  
1：期待どおりの成果が得られていない（単年度目標50～100%）  
0：ほとんど成果が得られていない（単年度目標50%未満）

(評価)	
------	--

- ・事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか)  
2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている

(評価)	
------	--

## (今後の課題)

- ・事業が直面する課題や改善が必要な事項


--

## (次年度の方向性)

- ・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか


--